

作曲のヒント

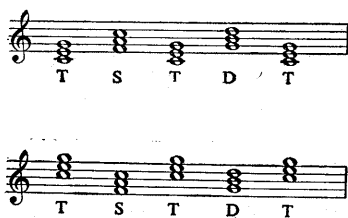
(三)



外山友子

終止形と和音の位置について

前号で、終止形が、ハ長調とか ト長調とか、その調を確立するものであるというところまでお話しいたしました。その終止形を作ってみましょう。



まず、基本位置だけで作ってみますと、どこに置いてみても、こんなに音が跳躍してしまいます。そこで、この和音が美しく、なめらかに進行するためには、どうしても、和音の位置(音のならば方)が問題になってきます。

それで、この位置について述べる前に、知っておかなければならない和音の一つ一つの音について述べましょう。

どの和音も、ドミソのド、レファラのレ、ミソシのミと、基本位置における一番下の音を根音といいます。その上の音、つまり真ん中の音は、根音から教えて三度上にあり、それを第三音といい



基本位置

ます。その上の音は根音から数えて五度上にあり、第五音といま
す。つまり三和音は、根音、第三音、第五音の三つから成っている
ということ。この三つの各々の音が、どれ

が低音になるかによって和音の位置が決まりま
す。

これが基本位置です。第三音を低音にします

と根音が上になりますが、どの位置に来ようと
根音は根音、第五音は第五音に変わりはないの
です。そして、この第三音が低音になった、の時

を第一転位といいます。次に、第五音が低音に
なったのが第二転位です。このように三和音

は、基本位置、第一転位、第二転位の三つの位
置を持っているのです。これはT、D、Sに限ら
ず、どの和音にもいえることです。例えば、レ

ファラの三和音でい

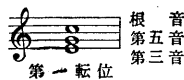
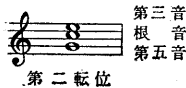
えば根音のレが低音

の時は基本位置、フ

ァが低音になれば第

一転位、ラが低音に

なれば、第二転位で



そこで終止形にもどりますが、和音の位置をどう選ぶか、という
ことになりますと、それにはその、規準があるのです。

ハ長調の終止形を、もう一度書いてみましょう。TとSを見ます
と、両方に共通の音Dが、同じ低音に置かれています。Tは基本位
置、Sは第二転位です。次に、Dを見ますと、

第一転位で、ソが一番上の音になって、前のT

と共通の音ソと同じ声部に置かれました。こう

すれば、基本位置同士でむすぶよりも、和音の

進み方が、ずっと、なめらかになりました。こ

のように、共通の音を同じ声部に置くというこ

とが、先ず第一の方法です。ピアノをひくにし

ても、ひきやすいことですし、また、歌にして

も、歌いやすい音のすすみ方です。

次に、もう少し進んで、四声、つまりピアノ

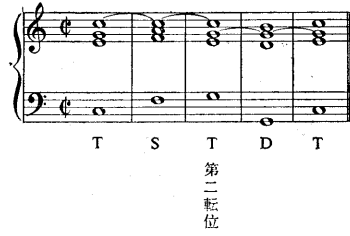
でいえば、両手でひく終止形を作ってみましょう。

先ず、低音を作ります。低音の下に、その和音の種類をきめて、T、
D、Sを書いてみます。次に、それぞれの和音の位置を考えましよう。

共通の音を同じ声部に置くということを、まず考えて次頁右上の
ように出来ました。この形は完全な混声四部の合唱曲になります。

このように、和声法を学ぶには、常に四声の形を厳格にまもること
が、基礎の力をつけることになるのです。



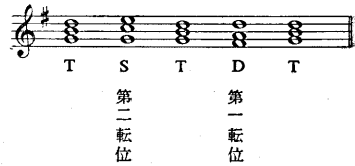


このように、音が四つ重なってきますと、三和音の、根音か、第三音か、第五音かの一つを重複することになります。響きの最もよいのは根音を重複する場合で、次は第五音の重複です。和音によって、根音や第五音よりも、第三音を重複した方がよい場合もありますが、それについては、後で述べます。



Dで気をつけたいのは、その第三音のシ、すなわち導音です。主音へ進む強い欲求を持った性格音なので、これを重複することは、禁じられていますから、この場合は、必ず、根音または第五音の重複ということになります。Dでなくとも、この導音を含んでいる和音では、特にこのことを注意して下さい。

さて、この辺で、少し調子を変えてみましょう。というのは、今まではすべて、ハ長調ばかりで述べてきましたが、どの調についても、あてはまることばかりでした。では、ト長調の終止形を作ってみて下さい。ト長調の、T、D、Sをピアノでひいてみましょう。



三声ですと、上のように、四声ですと、下のようになります。

この終止形を、書いて作るだけでなく、ピアノでひいて、和音の動きを耳で聞いて下さい。そして、ハ調、ニ調と、いろいろ調を変えて作ってみる事です。また、書かないで、鍵盤の上で、作りながらひいてみることもよい練習になります。

では次に、第一転位、第二転位について、もう少し述べましょう。

次頁右上図はT（ハ長調の）の第一転位ですが、低音ミから数えて、ソは三度、ドは、六度の音程の関係にあり、三六という数字が出てきます。第二転位の方は、低音ソから数えて、四度と六度ですから、四六という数字が出てきます。ですから、この数字に基いて、



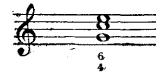
第一転位は、三六の和音、通常、ただ、六の和音
といい、第二転位は、四六の和音といいます。

基本位置は、三度と五度の

音程がありますから、三五

の和音といわれますが、わ

ずらわしくなりますから、



基本位置には特別な場合の他は、数字を用いないことにしてあります。

ここでいう音程は、勿論、オクターブ以上の、それらの音程をも
意味します。例えばこのような四声では、低音のドから数えて、オ

クターブ以上の音程になっていますが、

ド→ミは、やはり3、ド→ソは、5

という数字で示されます。

以上のように、数字を用いることにす

れば、第一転位、第二転位と、いちいち

書く代りに、この数字を用いればよいわ

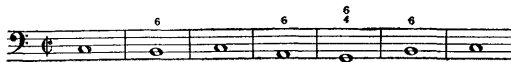
けです。

今この低音に、下のように数字をつけましたから、6と書いてあ
れば第一転位、6 4と書いてあれば第二転位、何も書いてないの
は、基本位置ですから、上の例をみて、何の和音であるか練習して
みて下さい。



では、次の低音に、数字をよく見て和声をつけて下さい。また紙
に書いたものを、必ずひいてみることです。

例題



*



*

